



竹田 英司

大阪大会（11月27、28日）へ向かう道中、トイレ休憩をした時のこと。通路に足を投げ出して居眠りしていた井上航選手の足裏をエドガー選手が「この邪魔な足は誰のだ？」と笑いながら強く押し続けた。

苦悶の表情を浮かべる航選手は言葉が出せず、選手みんなで爆笑した。私はファンクラブ限定動画撮影の好機とカメラを構えたが、



Vリーグ通算出場230試合を達成した深津選手⑥と盟友の八子選手



映像撮影 悲喜こもごも

エドガー選手の背中があまりにも大きくて撮影に失敗。残念だった。サントリーとの初戦で深津旭弘選手がVリーグ栄誉賞を受賞した。Vリーグから記念撮影を依頼されていたので深津選手に打診すると、「今日は負けたから撮影なしで」と相変わらずの「塩対応」をされた。そこに八子大輔選手が助け舟を出してくれたおかげで撮影できたのが、今週の写真。コロナ禍でなければ、お子様に花束を贈呈され、家族と一緒に満面の笑みで写真に納まっていたことだろう。

翌日も負け、連敗した後の控室。深津選手が金子聖輝選手に向かって語り掛けていた。「金子は先発セッターとして出られなくて不本意だろうが、それでも選手は試合に出ることが何より大切だ。今のチームにはセッターもアタッカーもできる金子の力が必要だ。松江大会（同14、15日）もあのまま自分がセッターで出続けていたら負けていたかも。だから金子、腐るな」

JT魂が受け継がれる瞬間に、私は控室の片付けをしながら立ち会った。（JT広島マネジャー）